

1：中区・中村区を中心に展開してきた名古屋の映画館事情

戦前は大須、終戦後は、広小路・栄町・名古屋駅前へと、名古屋の映画興行の中心は変遷していった。

1897年3月：中区末広町（現在の中区栄三丁目）の末広座でエジソンのヴァイタスコープ上映。

1908年1月：大須に文明館が開場。

1955年：名古屋駅前地区で映画館の開場ラッシュが始まった。

【調査の問題点】

- 区画整理や区域変更 例：覚王山通→内山
- 系列・映画館名の変更 例：今池東映劇場→今池フジ劇場／今池劇場→今池映画劇場
- 資料の数値の不一致 例：シネマコンプレックスの数え方（館数か、スクリーン数か）

西暦	『映画年鑑』より							『名古屋市統計年鑑』より			
	全国	東京都	愛知県	名古屋市				名古屋市			
				全体	中村	中	千種	全体	中村	中	千種
1960	7401	632	309	130	21	31	9	140	21	31	9
1961	7280	614	303	128	19	29	8	136	25	30	9
1977	2420	285	126	67	17	16	7	84	21	21	10
1984	2191	248	131	56	17	14	8	74	21	18	13
1985	2137	245	126	54	17	14	8	73	21	17	13
1986	2109	243	133	54	17	13	10	74	21	17	14
1987	2053	237	136	52	17	13	10	74	21	17	14
1988	2005	232	141	53	17	13	10	67	20	16	13
1989	1912	219	142	50	17	12	10	63	20	16	13
1990	1836	213	141	50	17	13	9	60	20	17	10
1991	1804	207	138	49	17	13	8	54	17	17	9
1992	1744	198	133	47	17	12	9	49	17	14	9
2000	2585	237	213	73	20	11	6	41	16	11	8
2001	2635	254	211	73	20	11	6	36	11	11	8
2006	3064	343	220	67	21	4	4	21	8	2	5
2010	3414	357	258	77	23	4	3	20	6	2	5
2011	3367	353	251	77	23	5	3	18	5	2	5
2017	3525	363	293	92	26	5	3	21	5	2	5

1960年以降、他の区（上記表に記載のない区も含む）では映画館数が減少していったのに対し、千種区の映画館数は1960年代を通して横ばい状態が続き、1970年代後半には増加傾向に転じ、1980年代半ばにピークを迎えた。中区や中村区のピークから約25年後のことであった。しかし、1990年以降は、段階的に減少していった。

2：千種区の映画館の変遷(『映画年鑑』より) ※前頁表の掲載年分 【】は館数

1960.10 【9】

千種通 国際劇場・アカデミー劇場・今池フジ劇場
 覚王山通 今池映画劇場・仲田第二東映
 今池町 今池スター劇場・平和会館
 古出来町 出来町東映
 末盛通 本山映画劇場

1961.10 【8】

千種通 国際劇場・アカデミー劇場・今池フジ劇場
 覚王山通 今池映画劇場・仲田ニュー東映
 今池町 スター劇場・平和会館
 末盛通 本山映画劇場

1977.9 【7】

千種通 今池国際劇場・今池アカデミー劇場・今池フジ劇場
 覚王山通 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場
 今池町 日活平和会館

1984.9/1985.9 【8】

千種通 今池国際劇場・今池アカデミー劇場・今池国際シネマ
 覚王山通 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場
 今池町 今池につかつ平和会館
 田代町 三越映画劇場

1986.9 【10】

千種通 今池国際劇場・今池アカデミー劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 今池につかつ平和会館・シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

1987.9 【10】

千種通 今池国際劇場・今池アカデミー劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 今池につかつ平和会館・シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

1988.9 【10】

千種通 今池国際劇場・今池アカデミー劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 ロッポニカ今池・シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

1989.9 【10】

千種通 今池国際劇場・今池アカデミー劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場・
 キノシタホール
 今池町 ロッポニカ今池・シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

1990. 【9】

千種通 今池国際劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 ロッポニカ今池・シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

1991.9 【8】

千種通 今池国際劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池劇場・今池名画座・今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

1992.9 【9】

千種通 今池国際劇場・今池国際シネマ・今池アカデミー劇場
 内山町 今池劇場・今池名画劇場・今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

2000.12/2001.12 【6】

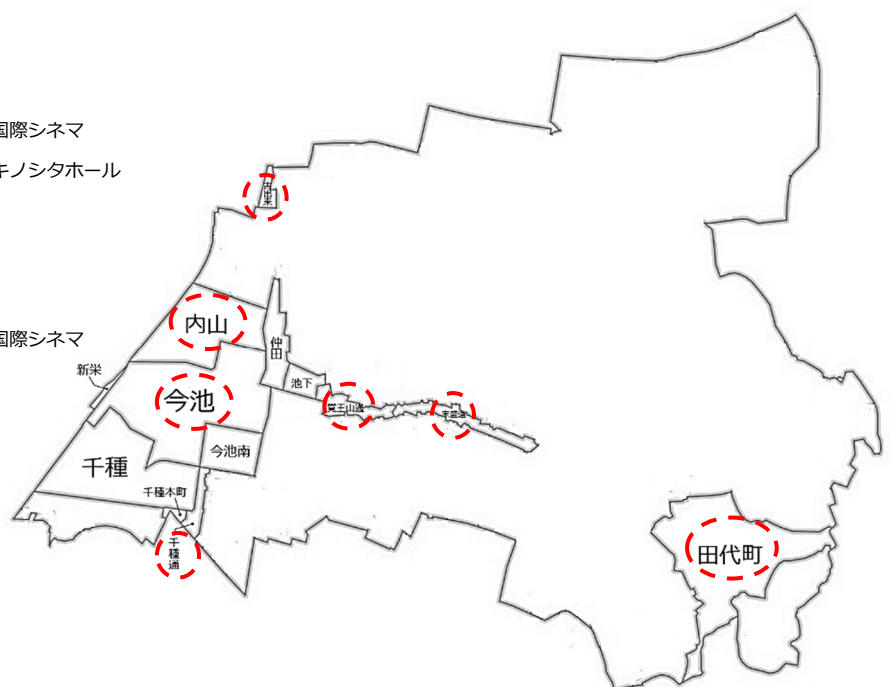
千種通 今池国際劇場・今池国際シネマ
 内山町 今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

2006.12 【4】

内山町 今池地下劇場・キノシタホール
 今池町 シネマテーク
 田代町 三越映画劇場

2010.12/2011.12/2017.12 【3】

内山町 キノシタホール(2019.4 閉館)
 今池町 シネマテーク
 田代町 三越映画劇場(2020.10 から休業)



3:『名古屋タイムズ』で紹介された、映画全盛期の千種区の映画館(1956—59年)

◆ 仲田ロマン座(1956年3月2日「名古屋の窓口」)

二十六年十二月開館、定員二五二。開館以来の松竹系で「お茶漬の味」「君の名は」なかでも「二十四の瞳」が開館以来のヒットというからその傾向も判ろうというもの。冷暖房設備のない悲しさが身にこたえているというが、本年初めから経営者も変って新発足の意気を見せている。去年の夏、三十円のナイト・ショウをやったばかりにかえって昼の客足が落ち、固定ファンが減って客層も変容するほどの打撃をうけた。その痛さが身にこたえて、今後はあくまでロードショウ劇場の品位を保つという方針に切り換え、着々昔の声威をとり戻しつつあるという。

◆ スバル座(1956年4月15日「名古屋の窓口」)

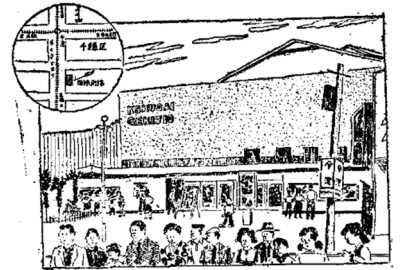
満四歳。低料金洋画劇場として発足当時は好評だったが、このごろのように同種の小屋が続出したのでは珍らしくもなく、覚王山周辺のファンだけでは、不足になった。そこで、邦画(日活)を加えて洋画との併映戦術をとっている。「警察日記」「帰らざる河」などがヒットした。まだまだ洋画だけで一本立ちはできぬという。前経営者時代は「スバル座」だったが、意味が判らぬので「スバル」にかえたという話。定員三五〇。

◆ 国際劇場(1956年4月20日「名古屋の窓口」)

二十一年八月一日開館。戦後開館の第一号。今池興行街の基盤でその草分けとなった。東映五年間のつきあいが最も長かったが、この正月から東宝R S劇場に切りかえた。「ジャンケン娘」が今年いままでの最高だが、客層は最高でもないし最低でもない。いわば一番有難い中流ファンがついている。今度ウェスタン発声機を入れて、設備面も強化、さらに躍進を期している。定員四五〇。

※ 国際劇場(1957年8月1日「映画館めぐり」)

さかのぼること終戦時。焼イ弾攻撃で今池一帯灰じんに期し惨たんたる焼野ケ原!市民はただぼう然としてなすこと知らず、虚無的になっている時その心を慰めるが如く今池電停南に国際劇場が誕生したのが昭和二十一年八月、恐らく今池近辺では一番早く建った映画館ではなかろうか?映画は邦画各社を上映し、今池土地ッ子ファンを喜ばせていたが時流とともに改装し現在では東映々画ロードショウ館として東映ファンを吸収している。



◆ アカデミー劇場(1956年4月21日「名古屋の窓口」)

二十七年三月の開館。欧州映画を主体とした名画を専門に集めて上映、学生、サラリーマンなど映画鑑賞ファンの人気を集めている。洋画に限らずベストテン級の邦画もほとんど持ってくるので、いわゆる名画劇場として貴重な存在。「女中ッ子」「エデンの東」などが近ごろのヒットだが開館以来四百本の名画を上映しましたよ、と支配人も楽しそう。施設も封切館なみで、ほんとうに映画を鑑賞して下さる人に喜んでもらいたいという話。

※ アカデミー(1957年8月1日「映画館めぐり」)

建つこと昭和二十七年三月、洋画封切館としてお目見得して現在に至っているがこの館主氏ファンの心理をよくとらえている。ファンの支持大なる映画は洋邦画を問わず上映、忘れもしない去る日、真空地帯、ひめゆりの塔二本を上映した時はもう満員々々の大せい況、ファンが長ダの列をつくっていたのを覚えている。そして現在でもその傾向を発揮し邦画ファンに喜ばれている。



◆ 今池東映(1956年6月22日「名古屋の窓口」)

昨年十一月洋画五円劇場から東映準直営館として再発足。全国的に好成績だった「赤穂浪士」もよかった。あとは「薩摩飛脚」がまあまあ。今池がいよいよ、支配人の見解によると、半インテリ地区で、チャンバラものだってその半インテリ層に十分受け入れられる余地があるという。三年前、今池と桜山はほとんど同一線上にあったが、今日ではこっちの方が盛り場として遥かに上位と支配人は強気。

※ 今池東映劇場(1957年8月8日「映画館めぐり」)

昭和三十三年一月一日……年の幕明きとともに、寄席の幕は切って落された。名も今池富士劇場として花々しく開場はしたものの、寄席ファンのじいちゃん婆ちゃん族では、時代の波に抗し切れなかったのか、同四月二十八日に映画に転換、映画ならではの夜も明けぬ現代……。やっぱり映画ファンの支持は大きい。洋画上映館として発足したが何を感じてか同十一月一日に今池東映劇場と改名、東映ロードショウ館として再々出発して、東映ファンの支持を仰いでいる。今池近辺はこれからますます発展する公算大である。今池東映すくすくと伸びんことを祈念してやまない。

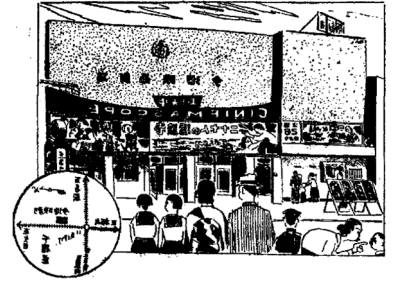


◆ 今池映画劇場(1959年6月26日「名古屋の窓口」)

廿五年十二月開館。二年ほど大映封切をやってから洋画に転向したインテリ層をねらったこの転身はまあ成功。アクションならまず間違いがないが、三番の「(●●)」や二番の「慕情」が好成績だったことがこの間の事情を物語る。定員五〇〇。興収の二割を宣伝に注ぎこんでいるというだけあって、なかなか意欲的なところを見せ、今池地区で確実な位置を占めているのは立派。

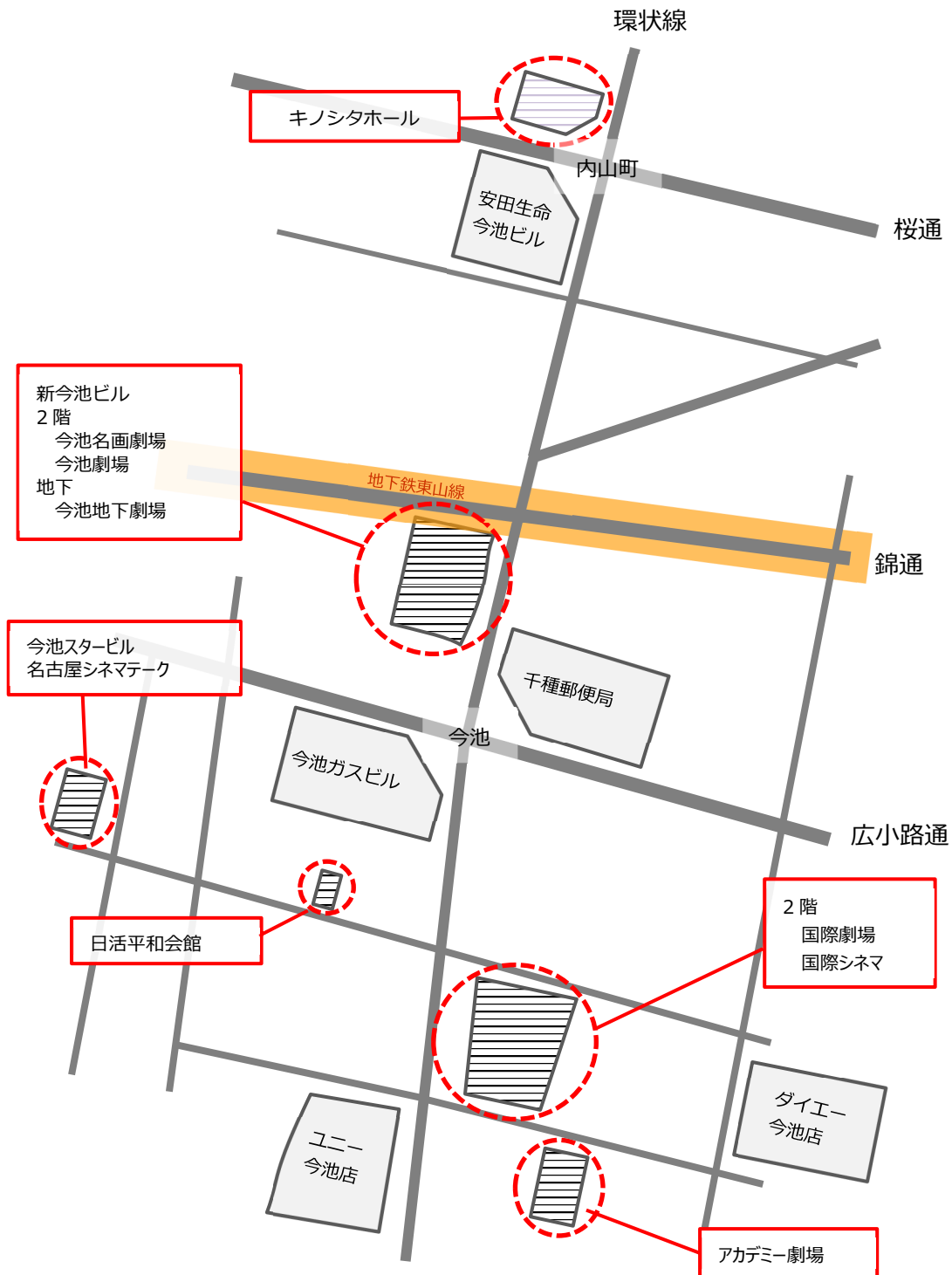
※ 今池劇場 (1957年8月22日「映画館めぐり」)

今池交差点西北角に、われわれ映画ファンを楽しませんものと、その姿を現したのは昭和廿五年十二月廿三日。そのこけら落しに大映の「いつわれる盛装」を上映し、京マチ子とそのボリュームに物いわせて、ファンを悩殺したもの。そして大映ファンの支持を受けていたが、その二年後に洋画を上映、洋画ファンを慰めていた。いつとはなしに洋画に邦画を併映し、両ファンを喜ばせるようになり、現在では洋画を主として上映しているが時々邦画も併映。今池劇場を控えているし、交通の便もよく、映画狂でなかなか繁盛している。



4：最盛期の今池の映画館分布地図 (1986年)

最盛期の千種区では、今池や内山に映画館が集中していた。



5：考察——過去・現在・未来

1960年代以降の映画斜陽期にあっても、千種区の映画館数は維持された。やがて映画館は今池に集中し、そのピークは1980年代半ばにやってきた。なぜだろうか。それは、今池には多様な人々を呼び込む魅力があり、まるでごった煮のように、文化・芸術を醸成する力があったからではないだろうか。今池が「カオス」と称されてきたゆえンである。

① 地形・交通

- ※ 池下以東は地形的に丘陵地帯だったのに対し、今池は平坦な地形だった。
- ※ 千種駅も今池駅も接続駅であり、この二つの駅もまた徒歩圏内にある。
- ※ 地下鉄は、映画館と連結した。

② 人の流れ

- ※ 市電や市バスは、矢田（工場）・東山や八事（住宅街）・桜山（学生街）といった方面から人々を今池に運んだ。
- ※ ベビーブームの時代に、仲田は住宅団地として居住者を多く抱えていた。※ 当日参加者の指摘による。
- ※ 都心部とは異なり、今池の住人やその近辺の若者・サラリーマン・労働者がリピーターになった。名駅や栄に出なくても、今池で十分に手軽に（それこそ普段着で）楽しめると考える一定数の人の流れがあった。

③ 昼の顔と夜の顔を持つ繁華街・今池

- ※ 商店街と歓楽街という二つの顔。飲食店の多さ。パチンコ・ゲームセンター・ボーリング場などの娯楽施設。
- ※ 映画館のチラシには、今池の喫茶店やバーなどの広告が掲載された。

④ 名古屋シネマテーク——映画狂の聖地

- ※ 倉本徹が所属する名古屋大学映画研究会の自主上映活動により、映画ファンや映画狂ともいえる層が掘り起こされていった。1982年6月に名古屋シネマテークが誕生し、彼らを今池に呼び込むことになった。1987年からは、平野勇治が支配人を務めた。自分たちが観たいと思う作品を反動的に上映する姿勢からは、「名古屋は文化不毛の地ではない」という気概がうかがえる。シネマテークは、映画上映（興行）を文化に押し上げたといえる。
- ※ 併設された図書室と「名古屋シネマテーク通信」。

6：最後に

- ※ 人の交流や施設の変遷といった記憶が堆積することで街の歴史は作られる。その一部に映画館の歴史も含まれている。そして、映画を楽しむことには、飲食などの行為も付随している。その機会が豊富に用意されているのが街の魅力といえよう。
- ※ 映画祭の開催や、官学ならぬ館学連携への期待。

6：関連年表

1900年7月、国有鉄道千種駅開業。現在の約400m南に位置した。1961年に現在地に移転。

1904年11月、今池から東に1kmほどの月見坂に、覚王山日蓮寺（現在の日泰寺）創建。

1937年10月、千種区誕生。

1945年8月、終戦。

1960年6月、今池駅、東山線（第1号線）の延伸に伴い開業。

1960年6月、栄町駅（栄駅）―池下駅間が開業。

1963年4月、池下駅―東山公園駅間が開業。

1967年3月、東山公園駅―星ヶ丘駅間が開業。

1982年9月、現在の区間（高畑―藤が丘）が完成。

※ 今池からは市電が段階的に消えていった。

1965年3月、市電覚王山線（今池―覚王山間）廃止。

1967年2月、市電覚王山線（栄―今池間）廃止。

1974年3月、市電循環東線（矢田町四丁目―新瑞橋間）廃止。

1961年12月、谷口暢宏が「ちくさ正文館」を創業。名古屋の人文科学・芸術・文化を支える拠点に。

1962年、新今池ビル開館。

1969年11月、ダイエー今池店開業。

1971年1月、ユニー今池店開業。

※ 大型スーパーが環状線を挟んで存在したことになる。

1971年1月、名古屋大学映画研究会の倉本徹が中区役所のホールを借りて、自主上映活動を始める。

1975年2月、千種区から名東区が分区独立。

1980年10月、百貨店が直営する名画座として三越映画劇場が開場。

1982年6月、名古屋シネマテークが開場。

1984年4月、椋山女学園名誉教授の伊藤紫英が「シネマよるひる 改稿名古屋映画史 8mmから70mmまで」を発行。

1986年3月、名古屋初の本格的な映画製作会社キノシタが直営する形でキノシタホールが開場（2019年4月閉館）。

1986年4月、河合塾、入塾式で井上淳一監督の『燃えろ 青春の一年』を上映。赤塚不二夫や竹中直人も出演。

1987年8月、ちくさ映画祭開催。

千種区制施行50周年記念事業の一環として開催された。日本ヘラルド映画株式会社の会長・古川為三郎（1890-1993）が実行委員会委員長を務めた。8月31日から10月24日の55日間にかけて、アカデミー劇場において、邦画31本・洋画23本の名作映画を上映した。オープニングにあたって、山田洋次監督の講演会が行われた。

※ 古川はヘラルドグループの創業者。千種区では、今池劇場（1932年）、国際映画劇場（1946年）を開場した。

1989年9月、桜通線（第6号線）開業。今池―中村区役所間。

※ 今池駅は東山線と桜通線の接続駅に。1994年3月に今池―野並間が、2011年3月に野並―徳重間が開業。